

令和7年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和7年9月25日(木) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時20分

2. 会 場 根室市役所 3階 301会議室

3. 出席者等

根室市長	石垣雅敏
根室市教育委員会 教育長	波岸克泰
委員	岩崎園子
委員	魚谷直世
委員	兒玉歩
委員	山本連英
学校 花咲港小学校 校長	高田真弓
海星学校 校長	原健一
事務局 教育部長	佐藤健史
教育総務課長	大沼公治
特別支援教育担当主幹	日向正明
教育支援担当主幹	中原英雄
学校教育指導室長	角田牧子
学校教育指導主幹	近藤康
社会教育課長	松崎誉
スポーツ課長	渡辺孝幸
総合体育館整備推進課長	能崎嘉
図書館館長	旭明美
総務主査	飯島美紀
学校教育主査	橋本詩保

傍 聴 者 2名

4. 付議事項等

議 事：(1) 根室市教育大綱の策定について
(2) 市教委各課の課題と将来に向けた取組について

5. 議 事

<大沼教育総務課長>

ただいまより、令和7年度総合教育会議を開催いたします。
開会にあたりまして主宰者であります石垣市長よりご挨拶いたします。

<石垣市長>

令和7年度の総合教育会議開催に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。
教育委員の皆様におかれましては、日頃より当市教育行政の推進に、多大なるお力添えを賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

また、ご多忙の中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

皆様ご承知の通り、この総合教育会議は地方教育行政法のもとに設置をされているものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会し、教育行政について意見を交わすことで、教育施策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で12回目の開催となりますが、皆様と有意義な情報共有、また、意見交換ができればと考えています。

また、本市におきましては、先般令和7年度から令和16年度までを計画期間とする第10期根室市総合計画の策定をしたところであり、教育文化における政策目標として、「人を育み、文化を創造するまち」を掲げ、目指すべき、将来都市像であります、「未来志向で共に創る海と大地に生きるまち根室」の実現に向けて様々な政策を進めていく思いであります。

また、今回は国の法律に基づき制定をしてございます、根室市の教育施策の基本的な方向性を定める教育大綱につきましても策定期間となっており、新たな総合計画で位置づけた政策目標を実現するための指針として、本日お示しをさせていただくところでありますが、当市の将来を見据えたまちづくりについて皆様と意見交換をし、今後の教育施策に活かして参りたいと考えております。

教育委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

<大沼教育総務課長>

それでは、会議に入りたいと存じます。

会議の進行は主催者であります市長にお願いします。

<石垣市長>

それでは進行を務めさせていただきます。

まず初めに議事(1)「根室市教育大綱の策定について」であります。ご挨拶の中でも申し上げましたが、今年度から第10期根室市総合計画をスタートしたところであり、その政策目標達成に向けて根室市教育大綱をお示しするものであります。

それでは、事務局より説明願います。

<大沼教育総務課長>

議事(1)「根室市教育大綱の策定」についてご説明いたします。(資料1)

教育大綱につきましましては、地方教育行政の組織および運営に関する法律第1条の3の規定に基づき本市の教育振興施策に関する基本的方向を示すものであり第10期根室市総合計画で位置づけた政策目標を実現するための指針として、総合教育会議での協議を経て市長が定めるものとなっております。

令和7年度からスタートしました第10期根室市総合計画における政策目標は、記載のとおり、「人を育み、文化を創造するまち」となっており一つ目として、誰もが自分の存在と発信、貢献が他者に認知され、自分がその社会で欠かせない一員なのだと

実感しながら、幸せや生きがいを感じることができる「ウェルビーイングの向上」を目指す教育。二つ目として、社会の変化や将来のまちづくりを見据え、持続可能な社会の創り手を育てる教育の充実。家庭・学校・地域が連携して子どもを育てる教育環境の充実、市民一人ひとりの生涯にわたる学習活動の充実や歴史・文化への理解と、スポーツに親しむための効果的な施策の推進を掲げておりまして、この実現に向けて、根室市教育大綱の基本理念になりますが、これを「インクルーシブ社会を築くレゴブロック型資質・能力の育成」と定め、学校教育、社会教育の融合を図りながら、インクルーシブ社会の実現を目指した取組を進めるとともに、インクルーシブ社会の形成、まちづくりの礎に繋がる教育を推進して参りたいと考えております。

最後に3つの方向性になりますが、1点目、「一人ひとりの興味関心や発達段階を重視し、自分自身の選択と決定を尊重する教育」2点目、「自分自身がコミュニティに参画し、意思表示でき、それが尊重される教育」3点目、「教師と生徒、地域が互いに学び合う関係がある教育」としております。

この大綱に基づき、総合計画で掲げる政策目標の達成に向けて、様々な施策を推進して参りますが、各年度の取組につきましては、毎年の教育行政方針で具体的なものを示して参ります。今回の大綱は、令和7年度から令和11年までの5年間で計画期間となっております。

議事（1） 根室市教育大綱の策定について

<石垣市長>

この度の教育大綱の基本理念といたしまして、「インクルーシブ社会を築くレゴブロック型資質・能力の育成」といたしました。根室市におきましては、令和4年度から花咲港小学校を拠点として他に先駆けて、インクルーシブ教育の推進をしてきたところであり、道内外からの視察があると承知をしております。

本日は花咲港小学校の高田校長先生と海星学校の原校長先生にお越しいただいておりますので、まず、高田校長先生から花咲港小学校でのインクルーシブ教育の取組についてご紹介をお願いいたします。

<高田校長>

先ほど本校のグランドデザインも配布いたしましたので、一緒にご覧いただければと思います。

本校の現状についてご説明をさせていただきます。現在児童数が減少しており、今年度は新入学生がおらず、2年生から6年生までで9人となっております。現在、この9人中5人、家庭数で言いますと6件中3件が校区外からの通学となっています。令和8年度と9年度におきましても校区内に入学予定児童はおりません。

本校では、令和4年度から根室市の教育行政方針にもあります通り、インクルーシブ社会の実現を目指した教育の推進に本格的に取り組み、現在に至っております。

教育は全ての子どもに等しく与えられている権利であるということ。そしてインクルーシブな教育とは、全ての子どもが分かる教育を受けられることということ。を教職

員と共有をしまして、教育活動を進めております。

令和5年度には本校では初めて特別支援学級が設置され、現在、特別支援学級には2名が在籍していますが、障がいの有無に関係なく、また、年齢や性別、得意・不得意など一人ひとり多様であるということ。その多様性を包摂するという視点で、教育活動を進めております。具体的には学習の計画や時間割を自ら作成すること、主体的に学びを進めるというマイプラン学習やみなとっこアワーを進めております。また、対話を核として、教育活動を展開するうえで大切な時間となっております対話集会みなと一くや、物事に問いを持つことをスタートにした探究的な学びを行うMスタディという時間などに取り組んでいるところです。子どもの実際の様子につきましては、SNS等で発信をしています。

少ない集団の中で他人を意識せず、自分のペースで学びを進められることや適切なタイミングで適度な関係性の中で大人の支援があること。そのようなところで効果が見られていると考えています。もちろん少人数ですので、例えば社会性が身につにくいのではないかとといったような課題も見られますが、そうした課題については市内に4校複式校がありますので複式校同士で集合学習を行ったり、花咲港小学校は光洋校区にありますので中学校校区での集合学習を通して、また、地域のお祭りなど行事に参加をし、地域の大人の力を借りるなどしてそのような課題解決に取り組んでいきたいと考えております。

始めにお伝えしている通り、当面校区に入学の予定児童はおりませんが、市街地の幼稚園や保育所を中心に本校について紹介をしております。

<石垣市長>

続いて海星学校では、不登校対策など様々な事情によって学校に行けない子どもたちの対応として、柔軟な区域外通学の受け入れ、また、海星ふるさと大学の開催など地域に根ざした取組を推進されており、教育大綱で示す三つの方向性のうちの教師・生徒・地域が互いに学び合う関係にある教育を積極的に進められております。

<原校長>

本校は令和5年度から義務教育学校として歩みを始めました。それは根室市が掲げております「インクルーシブ社会を築くレゴブロック型資質・能力の育成」を踏まえて、その具現化を目指しているものです。それでは配布させていただいているグランドデザインに示している学校の存在意義から3点について説明いたします。

1点目は、「全ての子どもが理解され、安全・安心が確保される学校」についてです。「自分のことをわかってもらえる」とか「大切にされている」と実感できると頑張ろうという意欲も高まりますし、人を大切にできます。本校では、まず一人ひとりの子どもに寄り添い、話を聞く、受け止める、その子の感じ方や考え方を尊重するなど指導や援助のあり方を先生の価値観や信念から考えるのではなく、子ども理解に基づいて考えることを出発点としています。

2点目は、「9年間を見通して、ふるさとをつくり支える力を育てる学校」です。ポイントは大きく2つあり、自分のなりたい姿を描いて進める学習と探究活動です。まず、学習は毎日ではありませんが、それぞれの教科で自ら計画を立て、思考錯誤しな

がら学び、振り返り、質を高めていく「単元内自由進度学習」に取り組んでいます。中学校でも取り組んでいるのが本校の特色です。またそれだけではなく、総合的な学習の時間において、個人でテーマを決めて探求し、発表する「フリースタイルプロジェクト」や異なる学年と一緒に探究する「異学年交流」を位置づけています。これまでの学びを活かして自分が好きなことを追求し、他者とともに学び合い、成果を学習発表会など様々な場面で伝え、参観している方から認めていただく一連の流れがあります。こうした流れについて俯瞰すると、文部科学省では、不登校の子どもにとって、探究的な活動は親和的であるという見解が示されていて、子どもの学習意欲の向上を図るうえでも有意義なものであると考えています。これについては、今後一層充実する必要があると考えています。

3点目は、「地域とともに発展する生涯学習の基盤をつくる学校」です。根室市議会の議長を務め、本校の校歌を作詞した島治雄さんという方がおりましたが、島さんは本校が小中学校になった時に作詩をされましたが、その中で、海星学校は地域とともに発展する生涯学習のモデルとしての学校であってほしいという願いがあり、海星ふるさと大学はこの実現を目指して進めています。卒業生や私が話したり、地域住民や教員、子どもがパネルディスカッションを行ったりするなど、参加した皆さんが、ふるさと根室を感じるきっかけの一つになればと思います。先日、「J R hokkaido」という雑誌の一部に、海星ふるさと大学の取組が紹介されて全道、全国にも報道していただきました。

本校区は和田屯田記念館を初め、多くの文化財、教育資源に恵まれている地域だと思っております。こうした資源を有効活用して、学校・家庭・地域がともに楽しみながら、みんなが繋がっていく機運を高めていきたいと考えております。興味がありましたら、本校のブログや、新聞記事、お時間ありましたら本校に足を運んでいただいて、ご意見・ご感想をいただければと思っております。

<石垣市長>

高田校長先生、原校長先生からそれぞれ特色のある教育活動、地域活動のご紹介をいただきました。この度の教育大綱、校長先生方のお話も含めて委員の皆様からご意見などあれば伺いしますが、いかがでしょうか。

<魚谷委員>

インクルーシブ教育は今非常に効果が出ていて、全国的にも認知度が高まっていると思っております。しかし、今の保護者世代はハンディキャップを持つ子どもたちとは分離した教育を受けており、インクルーシブ教育について保護者世代の認知度はまだ低いのではと思っております。このインクルーシブ教育の成功には学校側の理解はもちろん、生徒側の理解、保護者側の理解という三者の理解が必要だと思います。さらに効果的にインクルーシブ教育推進をするには、保護者の理解はとても大事だと思いますが、インクルーシブ教育をどのように理解いただいているのか現場感覚としてどうでしょうか。

<高田校長>

私が赴任する前ですが、令和4年度にインクルーシブ教育の取組が始まる際に、地域・保護者の方々に一度説明会をしています。みんなが一緒にいることが普通になっていて特別なことじゃないということは地域も保護者もそうだと思います。確かに外部から見学に来た人たちは非常にびっくりされると思います。

子どもたちもインクルーシブという言葉は結構浸透していて「みんな一緒にいられるってすごいことだね」と時々子どもの口から出てきます。これがインクルーシブじゃなかったら、きっと私達は別々の教室で勉強していて、あまり接点がなかったかもしれないということが、子どもの口から出てくると考えると非常に子どもの中でも浸透していると思います。

<波岸教育長>

今までの教育大綱は、数ページにわたる分量があって、なかなか浸透しにくいものがあったのですが、今回はA4一枚にまとめてすっきりした形になったところですよ。

特に「インクルーシブ社会を築くレゴブロック型資質・能力の育成」という一つの方針を出したので、今までは数ページにわたるものはなかなか保護者や地域の方に示すことができなかったのですが、一枚にして見やすくなりましたのでこれをもって保護者や地域の方々により浸透を図っていきたいと思っています。

<兒玉委員>

インクルーシブ教育はみんなと一緒に学ぶことと本日お話を伺いましたが、困りごとがある子や支援が必要な子、不登校であるなど目に見える困ったことがある子の成長する姿というのはすごく分かりやすく、目立つと思いますが、支援が全く必要じゃない人間はこの世にいないと思うので、支援が必要な人と必要ではない人と分けられないことは、本来、本当に必要な姿だと思うのですが、特別支援学級に入らない子にもこの教育は成長させる良い教育的効果があると思います。そのあたりお話をしていたいただいてもよろしいですか。

<高田校長>

今年は道外から視察に来ていただくことが何件か続いたのですが、何で本校に来たのですかと尋ねるとインターネットで「インクルーシブ教育 小学校」と検索したら花咲港小学校が真っ先に出てきますよと言われ、私もインクルーシブ教育と検索してみるとやっぱり出てきました。しかし、本校の名前が出てくる一方で障がいのある子どもと無い子どもが一緒に教室で学ぶことがインクルーシブ教育の全てというか、極端な話をするとバギーとか人工呼吸器をつけたお子さんも同じ教室の中にいて同じ授業を聞いていることが、インクルーシブ教育という映像が結構載っていて、いろいろな誤解があるのだと最近思うところです。

本校をインクルーシブ教育として見たときには、子どもたちが9人なので、それぞれの得意・不得意も含めて全く一人ひとり別な子どもたちなのです。その子どもたちが例えば休み時間にどうやって遊んでいるのかというと、学年とか学級とかで遊んでいるのではなくて、合う子どもたち同士で遊んでいるとか、みんなで一つの興味のあ

ることについて、学年関係なく遊んでいたりと、その中で折り合いをつけていくことを学んだり、苦手なことを得意な子が補うことを学んでいったりなど、そこには医学モデルで障がいがあるなしというのが全く関係なくて、その時々でその役割分担が変わりながら、子どもたちが成長していくのが日々本校でみられている状況だと思っています。

<原校長>

今、主体的・対話的で深い学びと言っておりますが、深い学びをするためにはいろいろな人が必要だと考えています。できるとかできないとか、これが好きとか苦手とか、得意とか不得意とか、みんなのそれが合わさっていくことでより学びが深まっていくと受け止めていて、一部そういう姿も見られてきているので同質性の高い集団だけで学習するよりかは、いろんな人がいて、そのよさが合わさっていくことや課題をみんなで補い合っていくことが学びを深めていくうえでは、大事だと思っています。

<石垣市長>

ありがとうございます。

これをもちまして根室市教育大綱としてよろしいでしょうか。

<教育委員>

(異議なし)

<石垣市長>

それでは決定といたします。

議事(2) 市教委各課の課題と将来に向けた取組

<石垣市長>

続きまして、議事(2)「市教委各課の課題と将来に向けた取組について」ですが、教育総務課から順に説明をお願いします。

・教育総務課長

「インクルーシブ教育のさらなる推進と特認校の指定・不登校対策について」

【議事資料2 1Pにより説明】

「学校給食調理施設整備の展開について」【議事資料2 3Pにより説明】

・社会教育課長

「社会教育計画の着実な推進について」【議事資料2 6Pにより説明】

「文化財の環境整備等について」【議事資料2 7Pにより説明】

・スポーツ課長

「スポーツ推進計画の着実な推進について」【議事資料2 8Pにより説明】

- ・総合体育会館整備推進課長

「新総合体育会館建設に関する取組」【議事資料2 9 Pにより説明】

- ・図書館長

「子どもブックライフ応援事業の推進・学校図書館の充実・市民の読書活動の推進」【議事資料2 10 Pにより説明】

<石垣市長>

それぞれ各課から資料に基づいてお話がありましたが、皆さんからご意見、ご感想、これに限らず日頃思っていることも含めてお伺いいたします。

<魚谷委員>

部活動地域展開のお話があったと思いますが、部活動の指導者が非常に不足をしており活動できないクラブも多くなってきて児童・生徒の学べる場が非常に少なくなっていると思います。根室の子どもたちは学力面もそうですが、体力面が全道・全国的に見ても低い傾向があります。現在民間人材の募集をしていますが、平日の夕方に指導してくれる民間人材って非常に限られておりまして、いろんな取組をやっていただいていると思いますが、増える見込みは正直ないと思っております。

非常に難しいものになると思いますが、一つの対策としては三部制をとっている消防士の方や市役所の職員の方は運動経験のある方が非常に多いと思っております。ぜひスポーツ人材に活用できるような時間や勤務体系、そういった仕組み作りを検討いただけないかと思います。我々教育委員会は10年後のまちをつくる機関だと思います。我々が今頑張れば10年後にプロ野球選手がでるかもしれない、世界陸上に出場する人がでるかもしれない、プロのピアニストがでるかもしれないという部分で、今はこの10年後のために頑張らなければいけないと思っています。ぜひこの10年後の根室のために、子どもたちの夢のためにもご検討いただければと思っています。

<石垣市長>

お話しをいただいた消防署、市役所の勤務体系を含めて検討させていただきます。

<波岸教育長>

今までほとんどの場合、無報酬のボランティアでやってきたということで、それはもう持続可能な状況ではないのが全国状況ですので将来的な指導体制、子どもたちがスポーツ・文化に親しむことができるような地域をどう作っていくのか、部活動の地域展開をソフトテニスボールとサッカーで進めております。秋にはバスケットボールも始まります。

他の自治体の様子を見ていると教育委員会や市長部局で全体の種目を集め、会議で一緒にやろうという進め方をしているところが結構あるのですが、競技によって考え方も違いますし、指導者のバランスも違うので全国的には破綻をしている状況です。それぞれの種目の考え方、指導者の層、将来的なことを含め考えていかなければいけないと思っています。市長のアイデアもいただきながら進めていきたいと思っています。

<山本委員>

根室市が今後、インクルーシブ教育に力を入れていく方向であることを十分感じました。市外の方がインクルーシブ教育と検索すると上位の方に出てくるというお話でしたので、興味がある方が多いと思います。その中でいきなり根室へ移住となるとなかなか難しいと思いますので、例えばお試し移住みたいな制度を作るのは可能なのでしょうか。行ったことのない根室にいきなり行くよりも1ヶ月お試しできるような施設があると移住しやすくなり、人口も増えますし今後の経済にとっても良いと思いますのでご検討いただければと思います。

<大沼教育総務課長>

市には移住体験住宅もあり、ある程度の期間住める体制は整っています。お子さん連れの場合でも2拠点居住などのライフスタイルもある中で、区域外の就学を柔軟に取り扱うよう文部科学省からの方針も出されておりますので、そこも含めて周知していくことで移住体験を増やせればと感じました。

<山本委員>

できればインクルーシブ教育と検索したときに一緒に移住体験住宅のことも出てくるように紐づけしていただければハードルは下がるのかと思いますのでよろしくお願いします。

<石垣市長>

他に何かございますか。

<岩崎委員>

「社会教育計画の着実な推進について」の【今後の方向性】のところですが、若い方たちと人生経験が豊富な方との交流を図ることで子どもたちに様々な生き方や考え方があることを自分の親だけではなく、仕事をしている方などいろんな大人たちから学ぶ機会が今後増えれば良いなと思いました。そういう繋がりで高齢化が進んでいるサークルなどに若者が積極的に見学や参加をしていただけたらそこでも世代間交流ができると思います。

<松崎社会教育課長>

社会教育課では今年度から新たな社会教育計画を進めている中で、先般東京大学の牧野篤氏や島根県益田市でカタリバ場というものを作られた大畑伸幸氏に講演会をしていただいております。その際もいろいろアイデアをいただいていると感じています。なかなか今若い方々は大人との接点が少なく、核家族化やスマートフォンの普及、SNS上での繋がりなどでライフスタイルそのものが変わってきた部分もあり、人同士との関わり合いが難しい環境にもあるのかなと思っております。我々は最初のきっかけ作りは必要かなと考えています。結果的に「教育委員会の事業に参加しました。よかったです。」で終わってしまうパターンにならないように、そこから参加していただ

いた同志の繋がりづくりに変化できるような取組を進めて参りたいと考えております。

<石垣市長>

他にございますか。

<兒玉委員>

文化会館を高校生に学習室として開放していますが、中学生も利用できるようにはできないでしょうか。

<松崎社会教育課長>

最初のきっかけは根室高校のカビ問題からで学習の場の解放として進めてきました。小中学生に制限をかけているわけではありませんが、一つの部屋に高校生がいると小中学生は入りづらさもあるのかなと思います。今後、開放の意義や姿勢を発信し、いろんな方が利用できるよう環境づくりを進めて参ります。

<石垣市長>

学校へのクーラーの整備状況はどうでしょうか。

<波岸教育長>

ほとんどの学校で昨年度ウインドエアコンを整備しましたが、北斗・成央・光洋の3校は電気量が足りず今年度キュービクルの増設工事を行いました。その関係で少々設置が遅れましたが、夏休み中にすべての学校の整備が完了しました。整備して以降は学校からは不都合を感じていないという意見を頂いております。

<佐藤教育部長>

教室の向きも南向きで日が入るので遮熱のカーテンの導入も併せて検討していきます。

<兒玉委員>

文化会館にはエアコンはつかないのでしょうか。

<松崎社会教育課長>

現在、大ホール、小ホール、多目的ホール、特別会議室はエアコンが稼働しておりますので他の講座室、和室、リハーサル室等の設置に向けた設計を今年度行って、来年度設置工事を予定しております。

<石垣市長>

続きまして、3.その他について事務局から何かありますか。

<大沼教育総務課長>

特にございません。

閉 会

<石垣市長>

本日予定されていた議題は全て終了いたしました。

本日いただきました貴重な意見をしっかり踏まえながら、当市の将来を見据えた教育施策を確実に進めて参りたいと考えております。

本日は誠にありがとうございました。

<大沼教育総務課長>

以上をもちまして令和7年度根室市総合教育会議を終了いたします。

皆さま本日はお疲れ様でした。

(11時20分終了)